

“MIセンサ”を用いた「磁気マーカシステム」自動運転実証実験を 北海道・沖縄県でも実施

愛知製鋼株式会社（本社：愛知県東海市、社長：藤岡高広）は、今年度実施されている自動運転実証実験において、超高感度磁気センサ“MIセンサ”を応用した自車位置を高精度に検出する新技術「磁気マーカシステム」を提供し、社会実装を目指した検証を行っている。

今回、今年11月に滋賀県東近江市の道の駅「奥永源寺溪流の里」で実施された自動運転実証実験に続き、北海道および沖縄県で実施される自動運転実証実験においても「磁気マーカシステム」を提供し、実装に向けたさらなる検証を進める。

北海道については、12月10日（日）から17日（日）までの間、北海道広尾郡大樹町の道の駅「コスモール大樹」で行われる国土交通省が実施する自動運転サービスの実証実験において、積雪時における磁気マーカの自車位置を特定する性能を実証する。

現在研究されている自車位置推定技術としては、GPSや画像処理技術を用いたものが主流である。しかしながら、トンネル内や高架橋下などでGPSの電波が取得できないことや、夜間や悪天候下における画像処理の信頼性が十分でないことが明らかになってきており、今回の積雪時を前提とした実験は、まさに磁気マーカシステムが得意とする厳しい環境下でその有効性を実証するものである。

また、10月31日（火）から12月13日（水）までの間、沖縄県宜野湾市および中頭郡北中城村で内閣府が戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）の一環として実施する自動運転サービスの実証実験においても、「磁気マーカシステム」を提供している。具体的には、実証実験区間のうち、宜野湾マリーナにおいて、特定箇所磁気マーカを設置し、バス停に正確に幅寄せして停車させる「正着制御」を実証するものである。

なお、今回の実証実験においても、道の駅「奥永源寺溪流の里」で実施された実証実験と同様、先進モビリティ株式会社の自動運転バスに“MIセンサ”を用いたモジュールを取り付けて実験に供する。

今後も、実証実験に引き続き参画し、安全・安心な次世代公共交通システムへの貢献を図っていくとともに、次世代モビリティ・スマート社会に貢献する“MIセンサ”の新用途開発を戦略的に進めていく。

【参考】北海道および沖縄県における自動運転実証実験 概要

	北海道	沖縄県
名称	中山間地域における道の駅等を拠点とした自動運転サービスにおける自動運転実証実験	戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）「自動走行システム」におけるバス自動運転実証実験
期間	2017年12月10日（日）～17日（日）	2017年10月31日（火）から12月13日（水）
場所	道の駅「コスモール大樹」 （北海道広尾郡大樹町西本通98）	沖縄県宜野湾市および中頭郡北中城村 イオンモール沖縄ライカム～宜野湾マリーナ
目的	冬期（積雪時）における磁気マーカによる自己位置特定性能、GPSとの精度差の検証	磁気マーカによる正着制御の実証 （宜野湾マリーナにて実施）
主催	道の駅「コスモール大樹」を拠点とした自動運転サービス地域実験協議会	内閣府政策統括官（科学技術・イノベーション担当） 同 沖縄振興局 同 宇宙開発戦略推進事務局
参考	国土交通省プレスリリース http://www.mlit.go.jp/common/001211974.pdf	内閣府プレスリリース http://www8.cao.go.jp/cstp/stmain/20171027artokinawa.html